

令和6年度オンラインタウンミーティング懇談録

日時：令和6年8月17日（土） 10:00～11:30

場所：Zoom

参加者：市長 ほか 参加者 10 名

<懇談録>

○参加者 1

先ほどスーパーサイエンスシティ構想の概要を教えていただいたんですけども、私も資料を見させていただいて、早くこれが実現すると非常にうれしいなと思ってるんですけども。で、先ほども、スマホの活用の紹介があったんですけども、私も含めて高齢者にとって、スマホって非常にハードルが高いんですよね。で、実はこの申込みをした時は、スマホのフリー講座をやってくださいというふうなお願いをしたんですけども、実はその後、こういうスマホ講座の案内が来ましたんで、もうそれは取り消します。それで、実際に、あと今度そのスマホを活用する時に、やっぱり仲間内でこんなのいいよとか、いろいろお互いに教え合っているのがこれから必要かなと思ってるんですけども。私、今、老人福祉センターに毎週通ってるんですけども、あそこがまだフリーWi-Fi が整備されてない。で、以前もフリーWi-Fi 整備お願いしますということで持ち込んだんですけども、ログを取らなきゃいけないんで、1 か所 50 万位かかるから、なかなか予算付かないよということで、結局未だに付いてないんですけども。それで、県の方とかにも相談したんですけども、そしたら県のフリーWi-Fi と言いますか、県がやってる、何て言うんですかね、フリーWi-Fi のシステムについては、「IBARAKI FREE Wi-Fi」っていうのがあるんですけども、それについては特にログを付けるっていうのは条件にしないよというお話もございました。で、実際にログを取らなければ、ACCS とかの回線を直に結べば非常にコスト的には安く済むんじゃないかなと思ってまして。で、あとは時々、ふれあいプラザなんかなにも行くんですけども、ふれあいプラザはフリーWi-Fi あるんですけども、それはやっぱりログを取られてないようなんで、ぜひ老人向けにですね、フリーWi-Fi の老人福祉センターに整備をお願いしたいというのが今日のお願いです。

●市長

はい、ありがとうございます。皆さんの身近で、やはりフリーWi-Fi を整備していくことはすごく重要だと思っていまして、実は自治会長さんからの要望

があったので、自治会の集会所とかでも Wi-Fi の設置の補助金などを御用意したりですね、今全ての交流センターでの Wi-Fi の設置というのは終わっています。で、老人福祉センターも今実は進めていまして、既に谷田部と桜の老人福祉センターはもう設置ができてるんですね。ただ、別に茎崎をないがしろにしてるわけでは全くなくて、同時に進めてたんですけれども、NTT に調査をしてもらったら、ちょっと建物までの光回線の引き込みがちょっと難しい状況があったということなので、そこでどうすれば設置がちゃんとできるかというのを今進めてもらっていますので、建物までの回線接続をできるだけ速やかに進めてもらって、そう遠くないうちには茎崎でも整備ができと思っていますので、是非こういう場を御活用いただいて、皆さんでですね、教え合ったりしていただけると本当にありがたいなと思っています。

○参加者 1

ありがとうございます。是非よろしくお願いします。

●市長

できるだけ速やかに取り組みたいと思います。ありがとうございます。

○参加者 2

五十嵐市長、本日は貴重な御講演ありがとうございます。今年4月に流山市おたかの森というところから、吾妻の方に引っ越してまいりました。御存じのとおりに、子育て世代がかなりつくば市に急増してきているのかなっていうのは肌で感じてまして、実際私の取引先の子育て世代の方とかも同じ、この辺の周辺に引っ越して来たりとかして、やっぱりすごい人口増だなっていうのはすごい実感してまして。一方で、先ほど市長も触れられていましたように、若年の女性の方がちょっと離れる率もちょっと高いとか、そういったところは、今引っ越してくる子育て世代と逆に出て行ってしまう子育て世代のせめぎ合いが今起きているっていうところもあるのかなっていうふうに本日感じまして。中でも今この街で住んでいて、私が感じるのは保育施設、保育施設の数がちょっと周辺の子育ての街と比べるとちょっと不足気味なのかなというところ。あとは、やっぱりどうしても車社会がある街だと思いますので、例えば私がもともといた流山おたかの森のところでは、遠隔の保育施設も最大限活用するために、市がバスの送迎、駅前からバスで各保育施設に送迎するステーションっていうのがあったりとかして。なので、離れたところも保育施設も候補に入れながら、みんなフル活用して、なんとかその子供たちの保育施設を回していくっていうような取組も

やってたんですけど。そういったところも今回サイエンスシティっていう構想もある中で、そういった取組が、もう今後お考えになられているのかっていうことですか、あと周辺つくば、今吾妻住んで、つくば駅に住んでいるんですけども、結構周辺古びた居住施設が結構目立つ、この地域もまだ結構ありまして、多分女性の方が多分そういうその古いところとか、やっぱりどうしてもちょっと危険な匂いとかもして、そういう何て言うんでしょう、少し街のきれいさの整備とかですね、そういったところの今後のお考え等も含めて、子育て世代に対する取組の御予定等をお聞かせいただければ幸いです。よろしくお願いします。

●市長

はい、ありがとうございます。すみません、ちょっと私の説明の仕方がまず悪かったなと思って、少しだけさっきの資料をお示しすると、これはですね、今実は出ていってるのではなくて、今後2020年と2040年の比でいずれ40歳以下人口がこれぐらいになっていきますよという予測数値でして、実は若年の女性はやはり結構な割合でつくば市には今選んではいただいているという状況はあります。ただ、だからと言ってですね、本当に何もなくていいということではなくて、子育て施設を増やしていくということは、そもそもとても重要ですので、つくば市、例えば今まで取り組んできたことかというと、保育士への民間保育所への補助金というのをですね、全国でもかなり例がない、まあこれも私就任してすぐ始めたので、今はもうある意味当たり前になってますけど、月3万円の補助を出したりして、それによってかなりの保育士さんたちが入ってきてくれてとかですね、保育所の数も相当に増やしました。ちょっと今、正確な数字が手元に出ないんですけど。何しろ子供の数が日本で一番増えていますので、それに合わせた保育所の整備をずっと進めてきて、実はようやく一番新しい数字で待機児童が1人というところまではいったんですね。ただ、実際駅前でもう少し選択肢があった方がいいというのがあると思ひまして、来年も実は駅前に2か所ほどオープンをする予定です。定員がそれぞれ80、60名ぐらいですかね。60名ぐらいと20名ぐらいの2種類なんですけれども、そういうような保育所を整備はできるだけ積極的にしていくことをやっています。で、実はその送迎、保育ステーションですね、私ももう今から10数年前に市議会議員をやっていたんですが、その頃から実は注目をしていまして、流山にも見に行かせてもらったりしていました。で、議員時代もこれつくば市でもやった方がいいんじゃないのというようなことを提案したり、市長になってからも検討をしたんですが、結論から言うと、つくば市の場合、必ずしも周辺の保育士、保育所にもそこまで空がないということと、特に定員が足りないのは1、2歳児なので、ちょっと長距離子供を乗せるには負担が大きいかなというようなこと、諸々を考えて、安全面と

かですね、ただ、であれば、むしろ駅の近くにやはりしっかりと定員を増やしていく方向が重要だろうというので、本当に順次増やしているところです。ですので、今のところ送迎ステーションについては、一旦は置いてありますけれども、恐らく今後も何とか、再来年も実は保育所をまた新たに民間のものを整備したりしていきますので、何とかこれはなっていくのかなとは思っています。

同時に、確かに今恐らく国家公務員宿舎のことをおっしゃっているんですが、財務省のですね、持っていた宿舎とか、筑波大が持っていた宿舎とかですね、そういうところが半分廃墟のようになってしまっていると思っています。で、それはやはり今の現状は非常に危険ですので、国や大学等にもですね、ぜひ適正な管理をして欲しいということをお願いをして、かなり実は今でもまだあれでもマシになってきていて、もっとやばい状況だったんですけども。で、今、順次その再開発も進めています。例えば駅が一番近くの街区ですね、70 街区という場所があるんですが、吾妻小学校の西側ですけども、ここには国と様々交渉をして、まさにスーパーシティのモデルとなる街区をつくろうという計画をしています。これも企業を中心に誘致してもらいますが、市で一定の条件を絞らせてもらうことにしたので、あくまでも国有地ですけども、皆さんの様々な取組ができるような場所にしていったりと、そういうことを考えているので、順次ですね、今、公務員宿舎の跡地もちょっと危ないところがあると思いますが、筑波大学の方は図書館の北側ですけどもね、ここは実験のためのアリーナにしてもらえるようなことも進んでいますし、あと数年で、多分駅前の環境もかなり変えていけるんじゃないかとも思っています。本当に若い世代を、魅力があってですね、誘致していけるような取組はこれからもどんどんしていきたいと思っていますので、ぜひよろしくお願いします。

○参加者 2

ありがとうございます。

●市長

よろしいですか。

○参加者 2

あ、はい、どうもありがとうございます。

○参加者 3

おはようございます。五十嵐さんのプレゼンテーションを聞いていたら、とて

も素晴らしいことばかりやってるので、なんか文句を言うのがちょっと申し訳ないという気もするんですけども…

●市長

どんどん言ってください。

○参加者 3

ちょっと一つ気になったのは、プレゼンテーションの出だしで、台風と気候変動は別だというような印象を与えることを言ってたんですけども。台風が直接関東地方に来たり、東北地方に行くっていうのは従来あまりなかったことで、これは気候変動の影響だと思うんですよ。ですので、その辺はちょっと気候変動、五十嵐さんのとても重要なテーマだと思うので、ちょっと気を付けていただきたいと…

●市長

どんなふうに言いました？あんまりちょっと自覚が足りなかったですけど、台風と気候が別と私申し上げちゃいましたか？

○参加者 3

すみません、はっきりと覚えてないんですけども、皆さん大変ですよ、台風もあるし、気候変動で暑かったりするしと。

●市長

あの、いやむしろこの異常気象は気候温暖化の影響があるというのは、これ科学者も言ってることなので、密接に関連してるという思いはありましたが、すみません、言葉が足りていなかったようなので。

○参加者 3

ちょっと知らない人が聞くと誤解をするかなという。

●市長

ありがとうございます。

○参加者 3

で、それに関係するんですけども、昨年度のタウンミーティングでもちょっと発言させてもらったんですけども、気候市民会議です。昨年度で覚えていらっし

やるかどうかわかりませんが、市民から無作為で抽出して会議を開いて、つくば市に提言をするという、そういうことをやっても、気候変動について知識や興味があまりない人を集めてやっても、ろくなものができないであろうというようなことを僕は言いました。実際出てきたものを見ると、全くそのとおりになってます、ちょっと一言で言うと、市民が、ちょっと大げさに言いますね、市民が頑張らしましょう、それだけみたいな。で、あと市に対しても少しお願いをしましょう、というような提言になってるように見えます。それでですね、何がおかしいかっていうと、目的がね、ないですよ。会議の目的というのは書いてあるんですけども、そういう会議の目的はですね、集まった人が意見交換をして、行政に何かを提言する。その2つが目的だというふうに書いてあるんですけども、国連とかで2050年までにどうのこうのとか、2030年までどうか、数値目標はあるわけですよ。それに対して、世界の明日が見えるまちつくばは、最低でもそれと国連が言ってるものと同じレベルにするという目的で、気候市民会議が提言をして欲しいんですよ。実際に、数値的に例えばつくば市の全ての屋根にソーラーパネルを貼るとどのくらいになるかというのは、いくつも仮定を置かないと、数値計算ってできないと思うんですけども、仮定はこういう仮定をしましたというのを明らかにすれば、例えば2030年までにつくば市は日本が一番二酸化炭素を出してた時に比べると、40%まで減らせますとかね、そういうのをやって欲しかったというのを、出来上がったのを見て思ったんですよ。で、話は戻るんですけど、とても素晴らしいことをたくさんやってくれた五十嵐さんですから、次の10月以降もぜひ市長をやってもらって、もうちょっとこう、何だろう、何となくぼやかした市民会議をやりました、終わりじゃなくて、どういう目的で、例えば二酸化炭素排出量を何%まで、いつまでに何%まで減らす、そのためにはこういうことをやるという、そこまでのレベルの気候市民会議、つくば市がやってくれてもいいんですけどね、誰がやってもいいんですけど、そういうのをやってほしいなと思います。

●市長

はい、ありがとうございます。気候市民会議のちょっとスライドを出しますけれども、本当に私にとっても、この気候変動というかですね、気候危機だというふうに認識をしていますが、非常に大きなテーマでして、先ほどもお話をしたように、無作為抽出で気候市民会議については開催をさせていただきました。で、今、参加者3さんにお話があったように、やはり市民がやるアクションというのが確かに多く入ったなと思ってます。ただ、私からすると、それはとてもある意味嬉しいことでして、市民の皆さんが御自分たちで議論をして、自分たちもこういう取組をやろうよねということで、やはり25万人いますので、一人一人の、

例えばですけど、さっきのごみの話じゃないですけども、一人がつくば市の場合、50 グラムぐらい減らしてもらえればですね、かなり減っていくんですね、1日の排出量。そして何か、例えばティッシュペーパーの箱1個分ぐらいだ、そんな、もっとかな、本当にすごく僅かなものなんですけれども、そういう努力の積み重ねが大きな変化を生むんじゃないかなという思いはあります。と同時に、今、参加者3さんがおっしゃったこともとても重要だと思っています。具体的な数値目標を持って、どうしていくかという部分でいうと、この画像で言うと、左側の脱炭素先行地域に選ばれたのは、その意味では非常に大きいと思っています。これはもうかなり具体的にですね言うと、2030年までにまず中心市街地のエネルギーを再エネ100%で賄うということを掲げています。で、そのために今いろんな事業者と連携をしたプランをつくって、それが採択をされたんですね。で、当然、国は2050年という目標がありますけれども、やっぱりここでどういうモデルを作れるかと。ここでしっかりモデルを作れば、それを市内の他の地区にも横展開できるんじゃないかなという思いで持っていますので、行政として強いリーダーシップを持って進めていく、この脱炭素先行地域のようなもの、市民一人一人のアクションである気候市民会議を上手く組み合わせながら、これどっちかだけではなかなか難しいと思いますので、そこがうまく双方行き来をしながらですね、今、参加者3さんがおっしゃったように、その大きな目標を達成していきたいなというふうに考えていますので、私もどちらについても私自身がしょっちゅう会議を、職員とも意見交換とか、企業の皆さんともしながら取り組んでいます、より加速させていきたいなというふうには思っております。いかがでございましょうか。

○参加者3

すみません、2つだけ言わせてください。まず、気候市民会議ですけども、500人の中から11%の人がやってもいいよというふうに答えてくれた、この11%がすごい数字だというのを去年の議会で言ってたんですけども、逆に言うんですね、10人のうちの9人は気候変動に何の興味もないんですよ。あるいは興味はあっても、例えば自分の仕事が忙しいとか、他にやる事がたくさんある、そういう人たちが市民はこうやりましょうっていう、いろいろ提言がありますが、それをやると思う？あの、性善説で立って政治をしてはいけないと思うんですね。だから何かインセンティブをつけて、例えば屋根の上に、ちょっと極端なことを言いますと、屋根の上にソーラーパネルを載せるのは、それは全部市がお金を出しますとか、ちょっと極端ですけどね。そのくらい何かインセンティブをつけないと9割の人はやらないと思います。で、時間もないので、もう一つ。左側の写真ですけども、市の中心部で何ておっしゃいましたっけ、すみません、自然

エネルギーにする 100%、100%自然エネルギーにするというのは手段であって、二酸化炭素排出量を何パーセントに減らすかという、そういう目標を立てないといけないんですよ。手段だけの話をしても、最終的にそれが二酸化炭素、温暖化ガスの排出量どのくらいになるかってわかんないじゃないですかという、ちょっと2つ感じました。

●市長

はい、ありがとうございました。どちらも御指摘のとおりで、残りの9人の皆さんにどう普及していくかっていうこともしっかり考えなくてはいけないと思っていますので、市としてもいろんな広報とか、それから実はいろんな補助制度を用意してまして、ソーラーパネル自体にはしてないんですが、燃料電池との組み合わせのパッケージなどでは、これ効果的と専門家から言われてますので、補助制度を用意したりとかですね、様々な今メニューも用意していますので、そういうインセンティブを提供しながらと思っています。数値目標もですね、確かにその再エネ100というのはあくまでも手段でして、これ当然2030年に全体の46、2050年に0ということが、これ国の目標としても掲げられていますので、ここに向けて、市としてもですね、当然頑張っていきたいと思っていますんで、一つ一つの取組をしっかりと大胆にやる部分と、市民と一緒にやる部分と両方を組み合わせながら頑張っていきたいと思いますので、ぜひこれからもよろしくお願いします。

○参加者3

すみません、一つだけインセンティブの件ですけども、電気自動車買くと2万円補助金が出るっていうのはなくなっちゃいましたよね。

●市長

はい。

○参加者3

で、なのに、水素自動車を買くと100万円の補助金が出るっていうのが残ってるんですね。それってちょっと変だと思います。はい、以上です。

●市長

補助金って、結構普及をある程度してくると、どっかで次のものを普及させるためにというのは誘導していくんですが、水素もですね、様々な課題があるので、その補助金については今いろいろ検討しているところではあります。

○参加者 3

はい、ぜひ止めてほしいです。はい、ありがとうございました。

●市長

はい、ありがとうございます。

○参加者 4

すみません、ちょっと口頭だとちょっとあれなのでちょっと画面共有で資料を投影しながら話したいんですがよろしいでしょうか？

●市長

はい。大丈夫だと思いますので、どうぞ使ってください。

○参加者 4

今、エクセルの画面配りしたんですが、見えてます？

●市長

はい。見えています。

○参加者 4

ちょっと私がお伝えしたいことが騒音に関する事です。環境基準に関する騒音のことで、ちょっとまず先に結論といいますか、御要望したい内容を先にお伝えしますと、現状、都市計画の用途地域の指定がない市街化調整区域なんですけれども、それが環境基準の地域類型というのがありまして、それが一律Cになっていますと。これを地域の実態に合わせて、実態として住宅地であるものは地域の類型をAとしていただきたいというのが御要望したい内容になります。現状、市街化調整区域は工業地帯だとか商業地域だとかと同じ地域の類型Cという一番騒音の基準が緩い方に分類されていますと。それを市街化調整区域といっても広いので、私が住んでいるところとか、実際そうなんですけど、実態として昔からあるような住宅地ですね、そういった所は地域の類型Aとして欲しいというのが要望です。で、ちょっと背景からちょっと時間がないのでちょっと早口になっちゃうと思うんですけれども、ちょっと伝えさせていただきたく。私は旧荃崎地区の昔から民家が建ってる地区に住んでいますが、以前より道路完成後の騒音問題を気にかけていますと。常総国道事務所からは私の地区の一部は騒音

環境基準を超える試算が出たため遮音壁を設置します、とは報告を受けているんですけれども、その遮音壁の高さは身長にも満たない1.5mの予定ですという報告を受けていますと。ちょっと1.5mだとちょっと減音効果が非常に不安なので、その理由を国交省の方に尋ねたところ、騒音の環境基準がちょうどわずかに下回る高さが1.5mのためですという回答でしたと。私としては、ちょっとこれではちょっと不安なので、ちょっと2m以上欲しいなっていうふうに要望しているところなんです。で、この高さの根拠となっている環境基準というのは環境省が定めていて、こんな感じで一般地域と道路に面する地域、幹線道路だと、道路の端から20m離れたところ、それとあと幹線道路における近接空間って言いまして、道路の端から20m以内のところですね。まあこういった分類で環境基準、デシベルで決められていますと。で、下に行くほど基準が緩くなっている感じなんです。この中で、同じ区分でも地域の類型っていうのがありまして、A、B、Cと分かれていますので、Aは専ら住宅の用に供される地域、まあ静かであるべきで、環境基準の一番厳しくなっていますと。Bがその中間で、Cが商業とか工業などに用いられる、騒音が許容され、基準も一番緩くなっている区域になります。で、どの地域がどの類型、地域の類型に当てはめるかというのは、都市計画上の用途地域というのが使われていまして、環境省よりひな形的なものは提示されていますが、基本は市であれば、各市がとか、村であれば県が定めていますと。ちょっとこれ環境省のホームページなんですけれども、このさっき言ったひな形として、用途地域にこれであればA、これであればBとか、こういったひな形は提示されているんですけれども、基本は各自治体が決めてくださいみたいな運用になっていまして。で、ここに現状、用途地域、市街化調整区域については用途の地域指定なしになるんですが、特に指定されてないです。ただ、地域の実態に合わせて定めることは妨げません、みたいな注意書きがあります。茨城県でもこれに基づいて、これ県のホームページに載っているんですが、環境基準の地域類型として、このページにこういったPDFの資料が付いていて、概ねつくば市以外もそうなんです、大体茨城はもう市街化調整区域で用途地域の指定がないところは一律Cになっていますと。この用途地域とこの地域類型の関係が、一対一じゃないといけないのかと言いますと、これ環境省に確認したんですが、まあそんなことはなくて、市街化調整区域で指定がないところでも、場所によってCだったり、場所によってAだったり、こう一対多の関係って言うんですかね、そういった運用は別にルール上ありですという確認をしていますと。ちょっと私がお伝えしたいのは、ちょっともうこの環境基準自体がもともと何て言うんでしょう人に優しいレベルであればいいんですが、結構この騒音レベルが60デシベル以上だと一般的にうるさいと言われていまして、さっきの環境基準でいいますと、一般地域のAとかBであればそれを大体満たしているんですが、それ

以上だともう結構環境基準で 60 デシベルを超えていまして、幹線道路沿いだともう 70 デシベル、昼 70 デシベル、夜 65 デシベルになっていますと。これと言うと、もう本当に結構かなりうるさいレベルになっています。うちの地区も環境基準を超えるので遮音壁を設置するって言われているんですが、その高さが 1.5m しかない根拠として、これが常総国道事務所からちょっと受領した資料なんですけれども、上が対策なしの場合で、上の段が日中で下が夜間で、これだと何も対策しないと薄いグレーのところで環境基準を超えていますというので、それに対して下の段で 1.5m の遮音壁を設置した場合の予想結果は下に出ていまして、ちょっと一部ちょっと超えたままのところもあるんですけれども、これの下回りますみたいなものにはなっているんですけれども。あくまでこの地域の類型 C の工業地域とか商業地域とかは、一番うるさいもの昼 65 デシベル、夜 60 デシベルですね、になっていますので、問題点としてはそうですね。

●市長

まとめて C になっているということですよ。

○参加者 4

あ、そうです。

●市長

ありがとうございます。この今その御要望したい内容というところに書かれて…いいですか、私喋ってしまっって？

○参加者 4

はい。

●市長

私の今印象としては、これは御指摘のとおりだなという感じがしてまして、そもそもこの基準値はちょっと、そもそものがあんまり人に優しくない、基準値、工業寄りの基準値になってるというのがもともと問題意識としてありますが、恐らく平成 10 年とかの頃に、一律に、簡単に言うと、もうあんまり細かく見てるの大変だからまとめて C にしちゃったというのが私の認識では本音なんだと思いますので。ちょっと今後ですね、この選んだ経緯とか、あるいは他の地区でどういうことをやってるかとか、そういうことを確認をしてみてですね、どういことができるかと、ちょっと検討してみたいと思います。確かに全ての調整が全部同じ C っていうのはちょっと乱暴だろうと思いますし、今の居住実態とは、

平成 10 年では相当違うと思いますので、どういうことができるかを検討をしてみたいと思いますので、はい、またそれで御連絡差し上げる形でよろしいですか。ちょっとすぐに、すぐに何か変更ということにはなかなか難しいかもしれませんが。

○参加者 4

はい、ありがとうございます。

○参加者 5

市長や関係者の皆様、本日は貴重な機会をいただきありがとうございます。私は 12 年以上の間、香害による化学物質過敏症に苦しんでいます。この切実な現状を相談したところ、つくば市には御理解いただき、今年 2 月の広報に掲載していただきました。香害とは、人工的な香料によって健康被害が生じることです。洗剤や柔軟剤などに含まれる化学物質が原因で、頭痛、吐き気、めまいなど様々な症状を引き起こします。きっかけは、当時小学生だった息子が持ち帰った共有の給食白衣に染み付いた柔軟剤の香りでした。以来、洗剤や柔軟剤などに含まれる化学物質のせいで香りを感じると、車酔いのような吐き気や体調不良で悩まされるようになりました。更には、ATM や買い物の際に受け取るお札、町内会の回覧板、図書館の本からも匂い移りを感じ、隣近所の洗濯物やお風呂から漂うシャンプーなどの香りも苦しいのです。受動喫煙のように健康被害を受け続けています。また、病院や電車の椅子などに染み付いた合成香料で服が汚染され、強い匂いが取れずに困っています。香害は、決して私だけの特別な問題ではありません。花粉症のように化学物質への過敏症状は誰にでも起こり得るのです。先日、和歌山県の中学 3 年生が香害で学校に通えなくなったというスピーチで表彰されたニュースがありました。子供たちにとっても健康被害が深刻になっています。ドラッグストアやホームセンターの洗剤売り場に大量に並んだ大手メーカーのテレビ CM でおなじみの合成香料の強い製品は生活に必要なのでしょうか。ヨーロッパではマイクロプラスチック入り洗剤を販売禁止するのに対し、日本では法整備が遅れており、苦しむ人が増え続けています。そこで、市長に強くお願いをさせていただきます。市民向けに石油が原料で有害な化学物質が使われた合成洗剤のデメリットを伝えて、無香料の石けんなど植物や動物性で自然由来製品が健康や環境に安心して使えるメリットを広めるセミナーの開催です。香害は、私たち一人一人の行動が変われば必ず解決できる問題です。いつ誰が苦しむことになるかわからない香害問題について、まず知ることから始めていただけたら幸いです。現役医師の南雲先生の YouTube「香害柔軟剤は今すぐ捨てて」

こちらが素晴らしい内容です。是非ご覧になってみてください。以上です。ありがとうございます。

●市長

はい、ありがとうございました。本当に香害でのお悩みってすごく強いと思いますし、私、あまり個人的な話をしてもしょうがないんですけど、私自身もですね、かなり過敏症とまではおそらくいかないんですけども、小さい頃から香水だとやっぱり頭が痛くなるとか、あとタバコが無理で頭痛がするとか、そういうことを経験してきましたので、参加者5さんほどの苦しい状況じゃないとはいえ、同じような状況にある人はたくさんいると思っています。はい、今議会でもこれ御質問をいただいていますし、学校での周知とかですね、様々行っているところですが。講演会等もちろんありだとは思いますが、やはり来られる方ってかなり関心が元々ある方しか来ないので、それよりは、今、市の例えば SNS はフォロワーが5万人位いますので、そういうところで今も積極的に周知をしていますが、いっていますけれども、普段そもそも香害って何？っていう人に届けないと、既に関心のある人というよりはですね、の方がこの問題は大きいのかなという認識、私も持っておりますので、私自身の SNS 等でももっと積極的に周知したりですね、市の見解を市報に載せたりとかですね、それをまだ知らない人にまず知ってもらおうというスタートをしていきたいなと思っていますし、そういう中でより何かこうセミナー等をやるような効果がありそうであればですね、そういうこともやっていければいいのかなというふうに感じてはおりました。本当に重要な問題だと思っていますし、声をあげて形にしていくことで社会の問題として認知されていくと思いますので、しっかりと（聞き取れず）

○参加者5

なるほど。本当にテレビの力が偉大なので、SNS を見てない方には是非講演会っていうのを本当に知ってもらいたいっていうのが願いなので、是非実現することを願っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

●市長

わかりました。テレビというのは？

○参加者5

テレビのコマーシャルの洗剤の力がとても強いので、SNS をやらない御年配の方とかが知る機会がないっていうのもありますので。

●市長

わかりました。そういうところも含めて、普段そういうのを見ない層の皆さんにも、どういう風なことができるのかっていうのは、しっかり中でも考えていきたいと思います。

○参加者 5

でも市長もそういうふうな匂いに過敏に感じてられるっていうことを聞いたのがとても嬉しいのでありがとうございます。

●市長

言ったこともなかったんですけども、実際本当に頭痛くなっちゃうので。

○参加者 5

ありがとうございました。

●市長

ありがとうございます。

○参加者 6

今日はありがとうございます。市長さんにですね、直接まずはお礼を言わせていただきたいんですけど、昨年度引っ越してきて小学校1年生で入学した次女が入学してすぐ不登校になってしまいまして。でも、たまたまうちの娘の小学校に校内フリースクールができたばかりだったんですけど、そちら娘がすごく合っていて、今も楽しく通わせていただいております、本当につくば市に引っ越してきて良かったって、まさか不登校になるとは思わなかったんですけど、本当にもう心から感謝してます。ありがとうございます。これ1個気になる点があるんですけども、通わせていただいているだけで本当に感謝してるんですけど、すごく支援の、そのフリースクールの先生方と担任の先生方が本当によく連携してくださっていて、その日の宿題もその日に貰えたり、授業の進捗内容とかも本当にその日にわかるぐらいに連携してくださってるんですけど、逆にそれが担任の先生、他にもやっぱり30名近い子供たちに見てくれて、大変なのすごくわかるので、もう娘、そのフリースクールに通ってる子供たちは、本当は通えてるだけで、もう本当感謝してるっていうのは、どの親御さんも一緒だと思うんです。なので多少その授業内容に遅れても、その日のプリントが貰えなくても、もう本当にいいので、担任の先生の負担をもう少し無くしていただいてもいいんじゃない

かなって。もうほんと日々送り迎えしてて思うんですね。特に帰りの、やっぱりその日の体調によって午前中で帰っちゃったりするんですけど、娘も給食食べれなかったり。そうすると、休み時間に担任の先生が駆けつけてくださって、今日のプリントです、ごめんなさいってすごい気にかけてくださるんで、本当にもうそこは本当に通わせていただいているだけで、もう十分満足してるので、担任の先生の負担をどうかももう少し軽くしていただけたらなって思います。それで、無理に教室に戻そう、戻そうってしてくださらない環境がすごくありがたくて、ちょっと娘は本当に大人数がちょっとやっぱ苦手なところもあるので、本当にこのままのスタイルで校内フリースクール、ぜひ続けていって欲しいです。よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

●市長

ありがとうございます。お子さんが使っていただいて安心できる居場所ができたこと、本当に今も伺っていてとても嬉しいです。まさにそういう場所でありたいと思っているので、決して教室に戻ることがゴールではなくて、どこか安心できる居場所があるんだよ、ということがお子さんにも伝わっていけばいいなと思っています。そういう中で、先生へのお気遣いまで、なかなかそういうこと言ってくくださる方はあんまりいないので、大変ありがたいと思いますが、今つくば市では、さっきもちょっとお話ししましたが、多分全国的にも例がないぐらい先生方の人の部分での支援というのは、あのものすごい小さいまちでは、またちょっと別かもしれませんが、やっています。さっきの例えば学校サポーターというようなものは、先生たちのいろんな庶務を全部やってくれる人達だったりしますので、先生方は随分助かってると言ってくれています。ただ、今お話があったように、じゃあ先生暇かっていうと、全くそんなことはないんですね。ですので、これからもそういう先生の、できるだけ負担を減らす仕組みはこちらでも一生懸命用意して、ただ、やっぱりなぜそうやって先生たちのサポートをするかという、それは先生たちが子供一人一人に、より丁寧に寄り添えるようにするということを目指しているの、今のように、もし担任の先生がですね、丁寧にケアしてくれてるんであれば、私としては何かやらなくていいよということとはちょっと言えないというか、ありがたいというか、まあその分よりこちらでも、もっと人を学校に手厚くして、先生たちがそうやってお子さんに向き合える時間を増やすというようなことに力を入れたいなと思っています。確かにね、プリントとか、そもそもプリントが必要なのかというような問題が多分根本的にあるとは思いますが、そういうような御意見もいただいたということは、ちょっと教育長にも伝えて、何かの機会に、その人一人一人がですね、本当に必要とすることが何かというのを見極めて、よく保護者の皆さんともコミュニケー

ションをとって進めて欲しいということはちょっと共有したいと思いますので、ありがとうございます。このスタイルでしっかり充実させていきたいと思いますので。はい、よろしくお願いします。

○参加者 6

はい。もう本当に十分感謝してます。ありがとうございました。

○参加者 7

はい、このような場所をいただきまして、ありがとうございます。市長の丁寧な対応に感服いたしております。単刀直入に言いまして、空き家ではなくて、持ち主が行方知れずになっている空き地対策が現状どんなふうになっているのかっていうのをお聞きしたいと思います。っていうのは、私のお隣の土地が 80 坪ほどあるんですけども、もう 10 年、20 年近く空き地になっておりまして、最初は不動産屋さんが対応されていたんですが、不動産さん辞められて、何か大手の三菱地所かな、が管理されていたんですけども、もうそこも持ち主が行方知れずになって、1 銭もたぶんお金をもらえないということで、その夏場とかの雑草ですね、雑草対策、全くされない状態で、ちょっと市の方にも問い合わせたんですが、ちょっと対応できないみたいな感じだったんですね。で、我々不動産さんも含めまして、うちももしあれだったら息子が土地買ってもしいかなと思ひまして、散々持ち主探したんですけど、結局持ち主さんが若い方で転々とされてるみたいで、もう住所をお知らせいただいてないので、もう捕まえられないんですね。なのでちょっと持ち主がわからないので対処できなくて、うちと両隣でいつも年に何回も草刈りをさせていただいてますけど、うちもその両隣とも高齢化段々してきまして、結構大変な作業になってくるので、近年どんな風に対応されていくのかっていうのをお聞きしたいと思います。よろしくお願いいたします。

●市長

ありがとうございます。空き家もそうですし、空き地もすごく深刻な問題だと思っていまして、市でまずどうしてるかということ、市にも空き地の除草条例というのはあるんですね。で、それで空き地に生えた雑草がやっぱり隣の方に御迷惑をおかけしてるような状況であれば、市から、市は土地所有者が誰かというのは基本的にはおおよそ分かりますので、そこで除草の勧告、で場合によっては命令ということが出来ますので、管理状況によって大体年に 2 回以上は除草してくださいというお願いはしているところです。で、ただですね、なかなか遠くにいらっしゃる方なんかが多いんですね、そういうケースって。ですので、業者を委

託してもらって、そこをやってですね、斡旋業者にやってもらって、いろいろな土地についてそういうふうに除草をしているということはあります。ただ、最終的にはこれ個人の資産になってしまうので、完全な強制力っていうのは本当に難しいんですよ。ですので、逆に多分その参加者7さんのそのお隣の土地というのも、市である程度の指導は入れているとは思いますが、もし改善が見られないようであれば、ちょっとまた個別に市にここですよということを教えていただければ、そこで改めて土地所有者にいろいろな形での電話とか文書とか、そういう通告は行っていて、ちゃんと管理してくださいということを粘り強く言い続けるということしかないではありますけれども、なかなか強制的に勝手に刈っちゃうのはなかなか難しいんですが、段階を追ってより強い措置に進んでいくという感じでやりますので。もし、状況が改善しないようであれば、市にですね、御相談いただければと思います。

○参加者7

はい。先ほども申したとおり、うちもかなり追跡調査させていただいて、法務局にも問い合わせ、持ち主確認して、あと市の方もその方の法務局に登録されてる住所にも何度か通知とかされているんですけど、全く応答がないらしいんですね。なのでいわゆる持ち主がもう多分捕まらない状態になってるんですね。で、隣、最初不動産が持っていたんで、買いますから探してくれっていうのもしましたし、うちもその住所を追って追って追っていったんですけど、結局そこにはその方が住んでいないっていうことになってしまっ、もう捕まらない状態なんですね。そういうふうに、全くその本人が捕まらない土地に関して、ちょっとどういうふうに対応されるのかなということですね。

●市長

空き家などのケースだと、特定空き家といって本当に危険な場合は、こちらでやむを得ず解体をするようなこともあるんですけども。ですので、その繁茂が危険な状態とか、そういうことになってくれば市で措置をとるということにはなってくると思いますが、もう完全に追えないケースってことですよね。管理が放棄されてしまっている土地とか。

○参加者7

そうですね、はい。

●市長

うん…どういう形がちょっと法的にあるのかを今日この後、市にも法務監と

いう弁護士がいますので、そういうケースで行政としてどこまで介入できるのかなというのをちょっと相談をしてみたいと思いますので。

○参加者 7

多分もう本人放棄してると思うんですね。多分若い方が持ってらっしゃるようなので、はい。ちょっと確認していただけるのがとてもありがたいと思います。

●市長

御相談はいただいてるということですよね。で、だから場所も市も参加者 7 さんから把握してる…

○参加者 7

はい、何度もあの市の方にも確認して、市も何かそれ対応取るように取ってくださってるんですけど、捕まらないんですね、その方が、追えないっていう。

●市長

何かできる範囲がどこまでかというのはありますが、できるだけちょっと法的に追求してみたいと思いますので。

○参加者 7

すみません、ありがとうございます。

○参加者 8

今日は機会をありがとうございます。聞こえますでしょうか？皆さんのように悠長にお話しできるかはちょっと不安なんですけれども、要望としては、東京とか神奈川など他市の一部のように迷惑防止条例のようなものを検討いただきたいなと思ったんです。あともう一つは、ホームページ、市のホームページやかわら版や広報を、あと町内会ですか、などに配るものに、マナーとか道徳文化水準の基準になるようなもの、例えば子供版の日本国憲法っていうのが絵本であるんですけども、そういったようなものを載せて啓蒙をしていただけたらなと思いました。というのが、すみません、ちょっと声が調子悪いんですけども、本当にごく一部の住民なんですけれども、大人も含めて一部地域でかなり差があるなということを体験し、またその困ったことによって相談や検索しましたら、日常にも先ほど出ました香害、香りの害とか、たばこの害とか、あと騒音、振動の件、たくさん載ってるのを偶然発見してしまったんですね。で、つくば市

にもたくさんありまして、今の時代、あり得ないようなことが、おかしいことはいっぱい横行してるんだなというのを知ったんですけれども。例えばよくテレビなどで話題になる騒音問題などでいきますと、公園でうるさいと注意をされて公園に行けなくなったからということですね、道路だけじゃなく住宅地ですね、あの人も家の周りとか、あとちょっとした空き地などで、ものすごい絶叫とか、すごく音、振動などをあげ続けるんですね。子供たちはやっぱり伸び伸び遊ぶのは素敵なことだし、みんなそうしたいんですけれども、住宅地っていうことに関しては、ローンを組んだり、簡単に引っ越せない所に皆さんがそれぞれの生活を持って住んでおりますので、体を壊すようなレベルとか、あと車とか壁とか、いろんなことに影響あるような不動産関係、不動産関係の被害ですね、っていうような事が起きているのに、子供だから全て許されるんだっていう理屈でこられたり、あと子供の親御さんが、やっぱり自分もそうだったんですけど、育ててる間は一生懸命子供の思いを汲んで育てるのが普通なので、子供のことを何で大人が我慢できないんだみたいな、パワハラ、モラハラに近いような数の暴力みたいな感じで向かってこられて、逆恨みも何年も受けたりしたんですね。自分だけかなと思っていましたら、ネット上には結構そういうので辛い思いをして泣き寝入りの方の声が上がっていましたので、今回ちょっと不慣れな操作が上手くできるかわからなかったんですけど、Zoom というアプリを入れてもらって、市長さんとお話しできるということで参加させていただきました。で、先程言いましたような底上げ、マナーとか文化道徳基準の底上げっていうのは、つくば市のようにいろんな外国の方から、優秀な人材とか労働力とか、あと学生さんや移住者が来るのに関しましては、これからの希望にもなると思ったんですね。で、子供版の日本国憲法という本が、ブルーの薄い本があるんですけど、その中に他人の権利を脅かさない限り、他人の心身の健康を害さない限りの自由と権利を皆が持っていて、尊重されるべきだっていうのがちゃんと明文化されたので、これがつくば市で普及したら素敵なまちになるだろうなというのがあったんです。昔よくあの民度という国民の民の字に、度数の度っていう字を書いた、あまり良くない意味で使われる民度っていうのが、言葉があるんですけれども、初めてちょっとそんな言葉があるのも検索で知りまして、子供様とか、あと町内会長様だと無法地帯を作られて、それで泣き寝入りみたいな流れになってしまうと言うことが実際に起きまして。で、診断書も何回も取ってるんですけども、やはり住民同士としては長く住むところなので、逆恨み受けちゃってますけれども、できれば事を荒立てたくない。相談先の市役所の方が言うように和も乱したくない。だけれども、実際逃げられない、ずっと住まなきゃいけないところで健康を害されたまま住むのも苦痛だということで提案させていただきます。具体的にいきますと、バーベキュー、たばこ、野焼きなどは健康的な被害、

先程の香害、香りの害も一緒ですね。それと猫の餌やりを善意でやってる人がいるんですけども、飼うことができないのに餌だけやるので増えちゃったり、餌をやってくれないところでマーキングやスプレーや引っ掻いて住宅や車などに傷をつけたりとか、あと、いろんなトラブルの元になってます。で、犬猫も可愛いんですけども、飼ってるんですけども、やっぱり一部そういうマナーあんまり考えないかわいがり方をする方のためにトラブルも起きています。それで、やはり住宅地ということですね、先程の公害、騒音のレベルが緩すぎて時代にそぐわないってことを、人が住むってことは、その人の心と体を持って、また LGBTQ 何とかっていうのと一緒に、過敏なというか、とてもデリケートなタイプの方が5人に1人以上いるってということも踏まえて、最近分かってきているんですけども、そういう声を人の耳や鼻や喉、塞げないことに関する被害ってことを、家でシャッター下ろしてか、カーテン閉めて、窓密閉しても振動として音は伝わってきますので、ダムダム族と言われるボールの音とかですね、そういうのもうちちょっと知って欲しいっていうのがありました。で、つくば市ではたばこの禁煙ロードとか歩行者優先モデル地区があったりしますので、先ほど申し上げたような、何かこう、罰とは言わないんですけども、ちょっとドキッとするような啓蒙を掲げていただけたらなと。そういえば考えたことなかったなとか、そういうきっかけを欲しいと思いました。よろしく願いいたします。

●市長

いや、本当に何というかこう、やっぱり市民が増えている中で、以前からも地区によってはやっぱり騒音の問題等があったり等々様々あるんですが、これをどう全市的にやっていけるかというのはすごく大きな難しいテーマだなというのも感じています。例えば、野焼きなどは、これはルールがありますので、例えば市では今まで農地って実は野焼きは法律上認められてしまってるんですね。ただ、野焼きは農家さんもしないとどうにもならないというので、だったら我々はその葉刈り芝を回収しますからというので、回収ボックスを作って農家の野焼きが激減をして、クレームも今激減、まだまだ少しありますけれども、もう私就任した頃と比べると、今もう本当に少なくなったんですね。ですので、そういうちょっと工夫を一つ一つしながらやっていく必要があるのかなということは思っていて。なかなかこう、確かに条例なども可能性はあるのかなと思いますけど、多分、条例を作ったからといって、人々のモラルとかが一気に上がるということはあんまりないのかなということも課題として感じてます。だからこそ、私のこの背景に映ってる「これからのやさしさのものさし」というのがつくば市のSDGs で掲げてることなんですけど、これはやっぱり自分の基準が相手とは違う可

能性があるよという気付きをですね、（聞き取れず）もらえるようなことを目指して、いろんな物差しあるよねと。だから自分が正しいと思ってることが相手も喜ぶとは限らないよねと。例えばこれ私のところに犬が映ってますけど、犬に物差しがついていて、街で会ってもかわいいねと触らないことと、補助犬にとってそれが優しさですみたいな。補助犬はやっぱり工作中なので、あんまり撫でられたり構われたりしたら困っちゃうわけですね。そういうような、ちょっと気付きをまさにハッと与えられるようなことを目指して、こういうものを作っているんですけども、そういう取組を一つ一つしながら、やっぱりもっとね、想像力を社会全体が持てるようにしたいなという思いはもっておりますし、それでもなかなかこう暴走行為などがなかなか無くならないとかですね、そういうのは警察に個別に対応をお願いするしかないんですけども、そういうことも含めて、ちょっと一つ一つ取り組んでいきたいなと思っていますので、ちょっとあまりこう、これやりますと明確なお答えができなくて申し訳ないんですが、そんな風にちょっと捉えてお伺いしていました。

○参加者 8

はい。最後に3つだけ具体例を挙げてもよろしいでしょうか。警察に相談しましたところ、居なくなっても間に合わなくても行きますということだったんですけども、実際に大人の方がアドバイスしたらしくて、ここは10分以上警察来るのにかかるからっていうのを聞いてるらしく、時計を見て10分、15分以内に引き上げることを何回も繰り返す子供もいるんですね。それと猫の餌やりなども茨城県の中にたった1か所から週に1回だけ注意しに来られるのが水戸だか笠間市の方からやってくるということで、つくば市の方から直接市で注意してくれたらいいなということがありました。あと、昔のことですが、野焼きも、市がお休みの曜日や時間、日が暮れてからとかやってた時代が、今はなくなったんですが（音声が途切れる）

●市長

一つ一つちょっとあの餌やり等についても環境にも共有しておきますので。

○参加者 8

はい、何卒苦しんでる方々が野放しにならないといいなと。（音声が途切れる）

●市長

ちょっと電波が…聞こえますか？音が途切れてしまったようなんですが。はい、しっかり取り組んでいきたいと思いますので、ありがとうございました。

○参加者 8

啓蒙が明示されるように願っております。

●市長

はい。いろんな機会を捉えて様々周知していきたいと思います。頑張りますのでよろしくお願いします。ありがとうございました。

○参加者 9

はい、すいません。冒頭ちょっと機材トラブルで後からの参加大変失礼しました。一番ちょっとお伺いしたかった市長さんのプレゼンテーションが聞けなくて大変残念なんですけども、皆さんの幅広い分野の御意見、とても勉強になっております。で、私、今、大学生、高校生、中学生 3 人子供がおりまして、主に子育てとか教育のところで御礼とお願いという感じなんですけども、今年 2 番目の子が高校に入りまして、で、どうしても本人の希望で市外のところに通いました。で、今年からつくば市でやっていただいたんですかね、通学支援金の事業っていうところで、予算ベースで 1 億円以上の予算をとっていただいて、とてもありがたく思ってます。で、早速オンラインで申請させていただいて、手続きを進めてるところでとても助かっていています。で、この世代で一番現実的にちょっとお金がかかってくるころなので、その辺のところが大変ありがたかったです、というのと、また今後その辺の世代に向けて何かお考えを市政対策に対してお考えされてることがあれば、お聞かせいただければと思ったんですけども。以上です。

●市長

あの高校の通学補助金は、これもあんまり前例の無いことなんですけれども、本来あるべき県立高校が全く足りていない状況ですので、もうこれは市でやるしかないということで補助事業を作らせていただきました。まだこれで十分かと言われれば、全くそれでカバーをしきれてないということも、私自身も子供がおりますので、よく分かってはいるんですけれども。今後も、まずずっとやらなくてはいけないと思ってることは、やっぱり少なくとも県立高校の増設はやってもらわないと、ちょっと話にならないなとは思っていまして、市内にも竹園高校などありますが、市内あるいは市内近辺にもっと定員を増やすべく、これはそんなにお金かかりませんので、つくば市はもう小中学校だけで、この 3 年で 6 校作るわけなんですけれども、県立高校が 1 校作れないわけでもないと思ってるんです

が、それでも作れないというのであれば、せめて今ある学校の1学年2クラスずつ増やすとかですね、そういうことをやるだけでも定員が増えていくと思っていますので、そういう働きかけをちょっと粘り強くやっていこうと思っています。併せて、実は今お話があったように、若者向けの施策というのは結構行政で抜けやすいところで、義務教育の中学生まではいろいろあるんですけども、高校以上になるとなかなかチャンスがないというか、その機会がないんですね。ちょっと実は私、今いろいろそのスウェーデンの若者向けの施策とかを顧問からアドバイスもらったりしてるんですが、そういう形で次の義務教育を終えた世代がどうやってまちで活躍していけるかとか、あるいは困りごとを相談できるかとかですね、そういう場所をちょっと踏み込んでですね、日本であんまりないんですけども、取り組んでいくことが必要なんじゃないかなという問題意識を持っていまして、スウェーデンなんかではユースセンターなんて言われ方をしますけれども、その若者世代が集えるような場所をですね、どういう形でつくば市でも実現ができるかな、なんていうのは、今実は様々なリサーチをしているところですので、こういうこともぜひやっていきながら、若い世代も、もちろんケアもこちらでもしますし、逆にまちの中でも活躍できるような、役割を持ってもらえるといいななんていうことを両面からちょっと思っているところです。お答えになっているでしょうか。

○参加者 9

はい、ありがとうございます。今後も期待させていただきます。

●市長

はい、では時間はおよそ過ぎたようですが、参加者 10 さん、すいません。先ほどチャットで御提案ありがとうございました。御質問はよろしいでしょうか？大丈夫ですかね？

○参加者 10

失礼しました。ありがとうございます。いろいろ勉強させていただいて、五十嵐市長の、あの何ていうか、知識の広さっていうところに感銘をまず受けて、今後も市を良くしていただければと思います。ありがとうございます。

●市長

ありがとうございました。貴重な御提案もいただきました。はい、では一旦司会にお返ししましょうかね。